

# 光星、誉（愛知）と開幕戦 令和初の「甲子園」きょうから



開会式のリハーサルで、武岡主将（左端）を先頭に入場行進する八学光星ナイン。5日午前9時ごろ、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場

## 開会式リハ 行進堂々 元気よく

令和最初の甲子園大会となる第101回全国高校野球選手権大会は6日、甲子園球場で開幕する。49代表校が出場し、16日間（準々決勝と準決勝翌日の休養日を含む）の熱戦がスタートする。

本県代表の八学光星ナインは5日午前、甲子園球場で開会式のリハーサルに参加した。ベンチ入り選手18人は、本番さながらの堂々とした行進をみせた。

前年度優勝校・大阪桐蔭（北大阪）の中野波菜（はる）主将を先頭に、北から南の順に49校が入場行進。3番目に登場した光星ナインは県大会優勝旗を持った武岡龍世主将を先頭に、小林嶺太選手の手掛け声に合わせて、元気よく腕を振っていた。

リハーサルでは、開会式直後の開幕戦で光星が対戦する愛知代表・誉（ほまれ）の林山慎樹主将が宣誓するなど、本番の流れを一通り確認した。武岡主将は「甲子園経験者が多いので、チームに緊張はない。誉戦は地に足をつけてプレーしたい」と意気込みを語った。

光星ナインは同日午後、西宮市の津門中央公



健康を誓い合う八学光星・仲井監督（左）と誉・矢幡監督。5日午前、阪神甲子園球場

### 光星・仲井監督 武岡が攻守の鍵 両校かく戦う 大量失点を警戒

2年連続10回目出場最多の188校が出場した八学光星は6日の開幕戦、た敵戦区。誉はノースイードから8試合を戦い、愛知と対戦する。愛知は全国工大名産や中京大・中京大などの強豪を破って甲子園行きの切符手にした。5日、甲子園球場で行われた開会式のリハーサルに先立ち、スタンド席で八学光星の仲井宗基監督（49）と誉の矢幡真也監督（46）と話を聞いた。

相手の印象は、仲井監督「投手を中心に守備力が高いチーム。激戦区を勝ち抜き、勢いもある。矢幡監督「超有名な八学光星に比べると、打撃力が優れており、恐怖を覚える。試合のキーマンは、仲井監督「攻守でチームを引っ張る武岡の活躍がポイントになる。5人

いる投手陣がどう機能するかも重要。矢幡監督「主将の捕手林山が精神的支柱。彼が落ち着いて投手をリードし、好機で打てればいい勝負ができる。警戒する選手は、仲井監督「誉の中軸はしっかりしている。県大会で好投した杉本君と山口君を早めに攻略し、流れをつくりたい。矢幡監督「武岡君初回から塁に出さないようにしたい。理想の展開は、仲井監督「3、4点ははすと思うので、5得点以上を心掛けた。矢幡監督「初回でヒットを減らし、テンポよく攻撃につなげた。

（1回戦） 強力打線 光星に分 △第1試合（10時30分） 八学光星・誉（愛知） 青森大会で打率4割超の八学光星に比べると、誉は打率を残し、3番近藤は6本塁打、4番原も5本塁打と破壊力十分だ。初出場

う注意し、後半まで最少失点でいきたい。意気込みを、仲井監督「令和最初の大会が大いに盛り上がるような試合にしたい。矢幡監督「初出場の不安を感じさせないような積極的なプレーを心掛けたい。（大久保拓地）

ティングを行った。甲子園球場95周年の今年、開会式で北海（南24年の第10回全国中等学校優勝野球大会の開幕勝利校となった。